

令和5年度府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（学校全体の取組）

1 現状及び課題等

(1) 学習改善の視点（生徒の学び方）

- ①各教科とも「得意」と感じている生徒の割合が東京都の平均より多いが、定期考査等の結果から基礎基本が身に付いていない生徒が多い。
- ②学習の動機について「分かる」「できる」が約8割である。約2割の生徒が「分からない」「できない」を理由に取り組めていない。
- ③「学習がうまくいかないときは学習の工夫をしている」という生徒は約6割で、東京都の平均よりも低い。課題解決のためにどうしたらよいかを考える習慣が少ない。

(2) 指導改善の視点（教師の指導方法）

- ①生徒の基礎学力を把握する工夫と基礎学力を身に付ける具体的方法の実践。
- ②生徒が「分かる」「できる」経験を通して学習の動機付けをする具体的方法の実践。
- ③課題解決をはかるための課題設定と時間の確保

2 学校全体で目指す授業像

(1) 目指す生徒の学びの姿

- ①学習の基礎基本が身に付いている生徒
- ②学習に対して意欲的な生徒
- ③課題解決に向けて創意工夫のできる生徒

(2) 目指す授業像

- ①生徒の実態を把握し、基礎学力が身につく授業
- ②生徒の関心・意欲を引き出せる授業
- ③課題解決学習ができる授業

3 学校全体で取り組む授業改善の具体的な取組

(1) 各教科における授業改善のポイント【全学年共通】

国語	朝読書や漢字学習など、小学校と連携して学習する。自分の考えを表現できるような活動を増やしていく。	美術	作品制作における導入から図案を発想する過程における時間の遅れを無くすためにタブレットやICTを活用して時間短縮を図る。
数学	図形やグラフを扱う単元の導入などではICT教材を適切に活用して効果的に内容の理解を深める。	技術	実習において生徒が模範作業動画などを自由に視聴し、自分のペースに合わせて作業を進める個別最適な学びを実践する。
社会	ICT教材を用いて、課題に合致した情報収集を行い、様々な資料から重要な資料を選別し、因果関係や類推の能力を高め、教科独自の見方考え方を深める。	家庭	見本の掲示や作業の模範を行うだけでなく、タブレット端末を用いた動画の活用や調べ学習など多様な情報収集ができるようにする。
理科	ICT教材を用いて、視覚的に科学現象を提示することで、生徒の興味関心をもたせる。また、グループ学習の時間を設定し、科学的思考力を養うような授業を展開する。	保健体育	ホワイトボードなどを用いて本時の目標・内容を提示し見通しをもたせる。ICT教材や図などを活用して分かりやすい授業を展開する。
音楽	ICT教材を活用して、分かりやすく、生徒が意欲的に活動できる授業を展開する。	外国語	学習内容の定着を目指し、主体的に行うコミュニケーション活動を毎時間取り入れる。ICT教材を用いて活動し、生徒の興味関心をもてる授業を展開する。

(2) 生徒用タブレット端末の活用【市共通】

課題解決学習において、生徒同士の意見を共有するためにタブレット端末を用いて、効率的に授業を展開する。